

事業評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道329号 与那原バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局	
起終点	自：沖縄県中頭郡西原町字小那覇 至：沖縄県島尻郡南風原町字与那覇		延長	4.2 km			
事業概要							
<p>国道329号は、沖縄本島の太平洋側と東シナ海側を結ぶ大動脈であり本島の南部地域と那覇市を結ぶ主要幹線道路である。</p> <p>与那原バイパスは、通過交通と域内交通が輻輳し、特に朝夕の交通混雑が著しい西原町～与那原町間の交通混雑緩和と那覇空港自動車道と一体となって広域ネットワークを形成することにより、マリントウンプロジェクト等関連事業の支援と地域の活性化に寄与する道路事業である。</p>							
H4年度事業化		H12年度都市計画決定		H14年度用地着手		H16年度工事着手	
全体事業費	470億円		事業進捗率	約48%		供用済延長	1.0 km
計画交通量	35,300台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年	
	(事業全体) 2.9 (残事業) 6.4	(残事業)/(事業全体) 210/464億円 （事業費：183/436億円 維持管理費：28/28億円）		(残事業)/(事業全体) 1,350/1,350億円 （走行時間短縮便益：1,211/1,211億円 走行経費減少便益：97/97億円 交通事故減少便益：42/42億円）		平成24年	
感度分析の結果							
(事業全体) 交通量変動		B/C=2.5~3.5 (交通量 ±10%)		(残事業) B/C=5.6~7.6 (交通量 ±10%)			
事業費変動		B/C=2.8~3.0 (事業費 ±10%)		B/C=5.9~7.0 (事業費 ±10%)			
事業期間変動		B/C=2.8~3.0 (事業期間 ±20%)		B/C=6.2~6.5 (事業期間 ±20%)			
事業の効果等							
①円滑なモビリティの確保							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 並行路線である国道329号に集中する交通が分散し、並行区間の交通量が56%減少。 【37,911台/日→16,635台/日】（未整備→与那原バイパス供用時） ・ 渋滞損失時間が57%削減。【390.56万人時間/年→168.76万人時間/年】（未整備→与那原バイパス供用時） ・ 那覇空港から西原町役場までの所要時間が14%短縮。 【47.4分→40.8分】（未整備→与那原バイパス供用時） 							
②個性ある地域の形成							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県、西原町、与那原町が協働して「中城港湾マリントウンプロジェクト」を計画・実施しており、与那原バイパスが供用することで利便性の向上が期待される。 ・ 沖縄県庁からマリントウンまでの所要時間が14%短縮。 【36.8分→31.7分】（未整備→与那原バイパス供用時） 							
③安全で安心できる暮らしの確保							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西原町役場から第3次医療施設である南部医療センターまでの所要時間が30%短縮。 【17.8分→12.5分】（未整備→与那原バイパス供用時） ・ 与那原バイパスの整備によって交通の分散が図られ、国道329号の交通量減少が見込まれることで、歩行者の安全性向上効果が期待される。 							
④地球環境の保全							
<ul style="list-style-type: none"> ・ CO2排出量が約9,058.60t-CO2/年削減（約0.49%削減） 【186.18万t-CO2/年→185.28万t-CO2/年】（未整備→与那原バイパス供用時） 							
⑤生活環境の改善・保全							
<ul style="list-style-type: none"> ・ NOx排出量が約43.23t/年削減（約52.1%削減）【82.97t/年→39.74t/年】（未整備→与那原バイパス供用時） ・ SPM排出量が約2.55t/年削減（約53.2%削減）【4.79t/年→2.24t/年】（未整備→与那原バイパス供用時） 							
関係する地方公共団体等の意見							
<p>当該事業は、ハシゴ道路ネットワークを形成する主要な幹線道路であり、中城湾港マリントウンプロジェクトを支援するとともに、高度医療施設や大型商業施設等へのアクセスの向上及び経済・産業に資す</p>							

る物流の効率化等を担う重要な事業であると認識している。

このため、同事業の対応方針(原案)事業継続に同意するものである。

事業評価監視委員会の意見

対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

与那原バイパスの整備を前提に、中城湾港マリンタウンプロジェクトの進捗、大型商業施設の立地、南部医療センターの立地が進んでいるが、与那原バイパス周辺での渋滞が生じている。そのため、バイパス整備への期待が大きい。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約48%、用地取得率は約90%(平成24年度末見込み)。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

コスト縮減により見直した構造の調査設計を行い、用地買収及び工事を進め、早期供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

県道240号との交差部で幅員を縮小し、約0.8億円のコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。